

# 「多摩の鉄道いま・むかし」

— はじめは私鉄から広がった —

開催日：平成28年 6月26日(日)

午後2時～5時30分(開場午後1時30分)

会場：小金井宮地楽器ホール

小ホール(小金井市民交流センター)

(JR武蔵小金井駅南口前)

参加費：500円(資料代共)

## 講演1

「多摩の鉄道は明治22年から始まった」(2時10分～2時55分)



山田 俊明 氏 鉄道史研究者・鉄道史学会会員・産業考古学会会員

多摩の鉄道の始まりは甲武鉄道。それに続く青梅鉄道や川越鉄道も私鉄でした。後に国有化された鉄道も含め、多摩の鉄道史は私鉄を抜きにしては語れません。路線によって異なるその成り立ちや性格、また時代による役割の変化に注目しながら、多摩の私鉄のあゆみを辿ってみたいと思います。

## 講演2

「多摩の鉄道への国鉄・JRのあゆみ」(3時5分～3時50分)



中島 啓雄 氏 元日本国有鉄道勤務・元日本貨物鉄道常務取締役・元参議院議員

都心と多摩を結ぶ中央線(旧甲武鉄道)は、明治時代に電車運転、昭和初期には複々線化・快速運転になりました。そして戦後は通勤混雑に対応して10両編成化・地下鉄への直通、省エネ車両の投入など。近郊電車として隣接の各線を含め、多摩地域の発展に果たした役割について考えます。

## 講演3

「文学作品の中に見る多摩の鉄道」

(3時50分～4時35分)



川口 順啓 氏 鉄道文学会顧問・元JR東海専務取締役

文学作品の中には、重要な移動手段としての鉄道の情景がしばしば登場します。そこで、多摩に縁の深い内容の作品を選び、国木田独歩と甲武鉄道線、徳富蘆花と京王電鉄線、大岡昇平と西武鉄道線、赤瀬川原平と中央線などの場面について、読み解いてみることにします。



## 鼎談

山田 俊明 氏、中島 啓雄 氏、川口 順啓 氏(進行役は川口氏が兼任)(午後4時45分～午後5時30分)

### ■山田 俊明 氏 やまだ としあき

武蔵大学経済学部卒、元東京都立高校教諭(地理担当)。主に多摩地域の学校で教鞭をとる。鉄道の歴史を物語る鉄道遺産に興味をもち、勤務の傍ら多摩地域や都区内を踏査。著書に「多摩幻の鉄道廃線跡を行く」(のんびる舎)、「東京の鉄道遺産 百四十年をあるく」上・下巻(けやき出版)、「鉄道からみた中国」(築地書館)、「ゲージの鉄道学」<共著>(古今書院)など。鉄道史学会、産業考古学会会員。

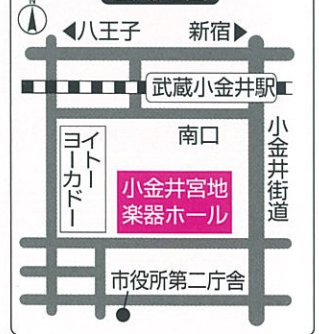
### ■中島 啓雄 氏 なかしま ひろお

東京大学経済学部卒。日本国有鉄道勤務、国際観光振興会フランクフルト観光宣伝事務所長、金沢鉄道管理局長、国鉄民営化後日本貨物鉄道(株)常務を経て、2007年まで参議院議員。著書に「現代の鉄道貨物輸送」(成山堂)、「活力ある日本 乗りたくなる電車・バス」(交通新聞社)など。

### ■川口順啓 氏 かわぐち じゅんけい

東京大学法学部卒。運輸省関東運輸局長、日本国有鉄道常務理事、JR東海専務取締役、名古屋ターミナルホテル社長、JR東海生涯学習財団常務理事、金沢学院大学客員教授などを歴任し、現在鉄道文学会顧問。著書に「日本の旅千五百年」(交通新聞社)など。

### 会場地図



車輛写真提供者:中島啓雄氏、山田俊明氏

主催:まなびの雑学実行委員会(NPO法人小金井雑学大学・NPO法人東京雑学大学)

助成:(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

問合せ:0422-52-0908(東京雑学大学)、080-5645-1477(小金井雑学大学)